

# ちゅうおう

第200号 2022年



第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会 長崎県代表牛選考会（令和4年7月7日；平戸中央家畜市場）

長崎県県央振興局農林部（中央家畜保健衛生所）

〒854-0063 長崎県諫早市貝津町3118

TEL 0957-25-1331（代）（休日、夜間も携帯電話に転送されます）

FAX 0957-25-1332

E-mail 衛生課：s34500@pref.nagasaki.lg.jp

防疫課：s34510@pref.nagasaki.lg.jp

検査課：s34520@pref.nagasaki.lg.jp



[HP]



HP：<http://www.pref.nagasaki.jp/section/ko-chuokatiku/index.html>

- [目次]
- P.2… 令和4年度 第1回長崎・県央地域飼養衛生管理指導強化推進協議会開催
  - P.3… 高病原性鳥インフルエンザについて～継続的な飼養衛生管理基準の遵守～  
夏季休暇期間中におけるアフリカ豚熱、口蹄疫等の防疫対策の徹底について
  - P.4… 野生いのししにおける豚熱ウイルスの浸潤状況  
家畜人工授精証明書の適正発行について
  - P.5… 全共代表牛選抜決定
  - P.6… 九州・山口病性鑑定協議会より



# 令和4年度 第1回長崎・県央地域 飼養衛生管理指導強化推進協議会開催

去る6月27日に令和4年度長崎・県央地域飼養衛生管理指導強化推進協議会が開催されました。

本協議会は畜産振興を図るため、振興対策と衛生対策を一体として推進し、畜産農家の飼養衛生管理基準の遵守をフォローすることを目的として昨年度発足しました。

家畜伝染病の発生予防のためには、本協議会の取組みが重要となります。

畜産農家の皆様におかれましては、本協議会の主旨をご理解のうえ、今後も飼養衛生管理基準の遵守に向けた取組みをお願いします。

## 今年度の協議会の取組み

昨年度から取組み始めた「実践7項目」の実施をはじめ、基準の遵守率向上のため下記について取組んでいきます。

### 《牛》

#### ・「実践7項目」の継続実施

協議会構成員による取組みを継続、強化します。

#### ・重点指導項目の設定

病原体を侵入させないための項目を中心に重点項目として絞り込み、改善指導を実施します。

#### ・農家支援の取組み

高齢等の理由で、農場出入口の車両消毒用石灰散布など体力的に実施が難しい農家を「要支援農家」とし、畜産関係者が農場に出入りする際に労力支援を行います。



### 《豚・鶏》

「実践7項目」の継続実施と全農場が基準全項目について遵守率100%を目指して取り組みます。

## 実践7項目の内容

### 農場に出入りの際の措置

#### 1 立入台帳への記入

○農場設置の立入台帳に名前や消毒の実施の有無等の記入

#### 2 車両消毒

○農場設置の消毒設備（動墳、消石灰帯等）で、適切に消毒を実施

○フロアマットやハンドルなども、交差汚染防止のため消毒

#### 3 手指の消毒等

○農場設置の消毒設備で、適切に消毒

○構成員自身でも、消毒薬を常備し、必要に応じて適宜消毒

#### 4 長靴の消毒

○農場設置等の専用長靴着用

○暫定措置として、ブーツカバーの着用又は長靴を十分消毒のうえ入場

#### 5 衣服の消毒

○農場設置等の専用衣服着用

○暫定措置として、適宜、消毒を行って入場、汚れがひどい場合は交換

### 畜舎に出入りの際の措置

#### 6 手指の消毒等

○農場設置の消毒設備で、適切に消毒

○構成員自身でも、消毒液を常備し、必要に応じて適宜消毒

#### 7 長靴の消毒

○農場設置の消毒設備で適切に実施

○豚・家きんでは、農場設置の畜舎ごとの専用長靴又はブーツカバーを着用





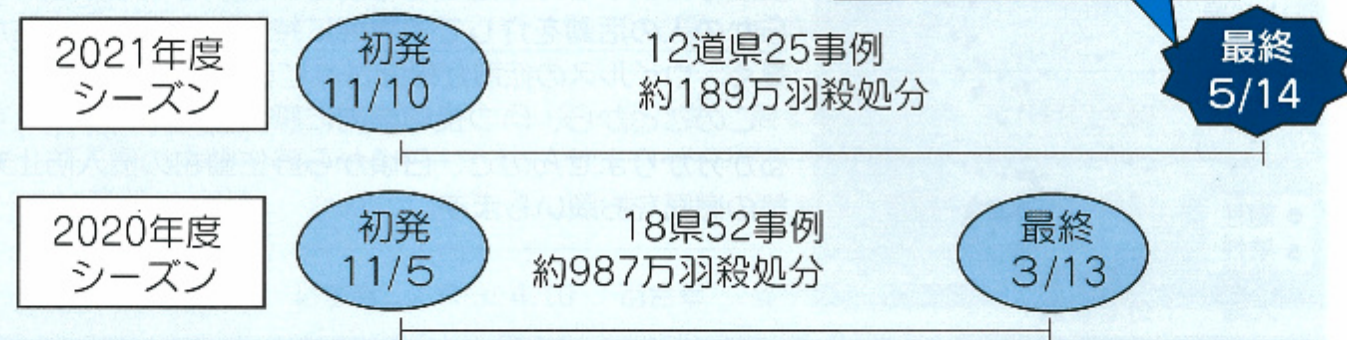
# 高病原性鳥インフルエンザについて ～継続的な飼養衛生管理基準の遵守～

2021年度シーズンの家きんにおける発生は、12道県24農場1施設で高病原性鳥インフルエンザが発生し、疫学関連施設を含め30農場1施設で約189万羽の鶏等が殺処分されました。また、野鳥における発生は、8道府県107事例確認されました。

国内における高病原性鳥インフルエンザの発生は、今まで2～3年おきに確認されていましたが、2年続けて全国的な発生が確認されました。また、家きん・野鳥ともに5月中旬まで発生が確認されたことや常在する身近な野鳥である「カラス」で感染が多数確認されたことから、渡り鳥のシーズン外においても注意が必要と考えられます。日頃から継続して、飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。

## ◎家きんにおける発生

昨年より2か月も遅い



# 夏季休暇期間中におけるアフリカ豚熱、 口蹄疫等の防疫対策の徹底について

令和4年6月10日から、約2年ぶりに外国人観光客の受け入れが再開されました。受け入れ対象の国の中にはアフリカ豚熱、口蹄疫の発生国である韓国や中国なども含まれています。これまでも観光客が持ち込んだ畜産物から病原体が確認されたケースが複数報告されており、今後、これらの家畜伝染病が国内に侵入するリスクが高くなるものと考えます。夏季休暇を前に、今一度飼養衛生管理基準の遵守状況の確認と下記事項の徹底をお願いします。

## 海外渡航に関して

- ・発生国への渡航の自粛
- ・発生国の畜産関係施設への立入を自粛
- ・海外から畜産物を持ち込まない

## 農場への侵入防止対策に関して

- ・部外者の立ち入りを制限
- ・畜舎や関係車両のこまめな清掃・消毒
- ・リサイクル飼料の十分な加熱（豚）
- ・飼養衛生管理基準の遵守



国際郵便での持ち込みも禁止されています

外国人従業員を雇用してる農場では特に従業員の方へ母国からの肉製品の持込（贈り物）禁止について、周知徹底をお願いします。

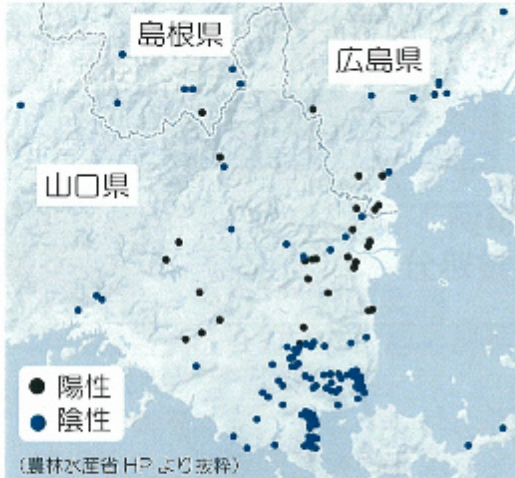


# 野生いのししにおける豚熱ウイルスの浸潤状況

令和4年3月に山口県及び広島県で感染した野生いのししが確認されましたが、その後、島根県においても山口県との県境で陽性が確認され、山口県においては西側に徐々に広がりがみられています。なお、島根県、広島県及び山口県は同年3月にワクチン接種推奨地域に、6月には大臣指定地域※に指定されています。

※大臣指定地域：野生動物が豚熱等の家畜伝染病に感染したことが確認されているなど、家畜伝染病の発生リスクが高まった地域が指定され、飼養衛生管理基準の追加措置が必要となります。

## 【野生いのししにおける豚熱陽性事例】



山口県で最初に確認された豚熱ウイルスは、およそ500km離れた和歌山県紀伊半島の野生いのししに由来するウイルスと最も近縁であることがわかりました。このような長距離の伝播はいのししの移動やいのしし間の接触等によってのみ起こる可能性は低いことから、**何らかの人の活動を介して遠隔地に持ち込まれた可能性**が高く、ウイルスの拡散が懸念されています。

このことから、いつ長崎県内に豚熱ウイルスが侵入するか分かりませんので、日頃から野生動物の侵入防止対策の徹底をお願いします。

# 家畜人工授精証明書の適正発行について

最近、本県におきましても和牛の血統矛盾が確認されており、家畜人工授精証明書（以下授精証明書）への誤記載が原因のひとつとして挙げられています。授精証明書は血統登録の根幹をなす書類であり、誤った内容で発行すると、それが些細なミスであったとしても後代にまで影響する重大な問題へと発展する可能性があります。授精証明書を発行する獣医師及び家畜人工授精師のみなさまは非常に重い責務をになっていることをご理解頂いたうえで、授精証明書の適正発行をお願いします。

## 獣医師及び家畜人工授精師のみなさまへのお願い

- 授精証明書は授精の度に速やかに作成するよう努めてください。（自家受精のみの場合も同様）
- 家畜人工授精簿と授精証明書に記載した内容を突合して下さい。
- 授精済みの精液証明書は、授精後速やかに授精証明書に貼付して下さい。（授精証明書には、授精した全ての精液証明書とストローを貼付）

間違いを防ぐために  
授精証明書は授精のたびに  
速やかに作成しましょう



## 農家のみなさまへのお願い

- 人工授精を実施した場合は、その都度、獣医師又は家畜人工授精師に授精証明書の交付を求めらるようして下さい（授精の度に作成を依頼し、獣医師、家畜人工授精師に預かっておいてもらうのも可）
- 作成された授精証明書の内容に誤りがないかを獣医師又は家畜人工授精師と一緒にその場で確認してください。
- 授精日、種雄牛名並びに分娩状況等を記録する繁殖台帳を整備し、記帳をお願いします。

記載内容に  
間違いがないか  
二人でチェック



授精証明書の誤記載をなくすために上記項目についてご協力をお願いします。



# 目指せ日本一!! 全共鹿児島大会 種牛の部 長崎県代表牛全14頭が決定!!

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会（10月6日～10日）まで、3か月を切りました。日本一を目指して、7月7日には平戸中央家畜市場に各地域から代表候補牛58頭が集まり、代表牛14頭が決定しました。続いて8月10日にはスーパーアイミート、生体審査等の結果を基に肉牛の部に出品される代表牛7頭が決定する予定です。代表に選出された皆様の御活躍を祈念します。

なお、本県代表牛は下表のとおりです（太字は管内からの代表牛）。

（種牛の部）

出品区	名号	生年月日	父	二代祖	三代祖	出品者	協議会
第1区 （若雄）	百合椿	R 2.11.15	百合幸	百合茂	安福久	肉用牛 改良センター	長崎県
第2区 （若雌の1）	やすのかつ	R 3. 5.12	勝乃幸	勝忠平	安平	野口大輔	ごとう
第3区 （若雌の2）	かの	R 3. 4.15	勝乃幸	金太郎3	安福久	田中満治	壱岐
特別区 （高校及び農業大校）	はずき	R 3. 4.10	百合幸	安平栄	平茂晴	諫早農業 高等学校	高校 農大
第4区 （繁殖雌牛群）	はるな おりひめ あいかな	H30. 1. 8 H30. 4.16 H30. 5.27	金太郎3 弁慶3 金太郎3	平茂晴 勝乃勝 牛若丸 （長崎）	安福久 北国7の8 平茂勝	村田宗勝 黒瀬武義 平山義雄	県北
第5区 （高等登録群）	やすさち はるさち ゆりさち	H25. 4.28 H28. 2. 2 R 1.12. 5	安福久 平茂晴 百合幸	勝忠平 安福久 平茂晴	川幸 勝忠平 安福久	市山浩司 市山浩司 市山浩司	県北
第6区 （総合評価群）	さくら すみれ ことぶき あかり	R3. 3.10 R3. 3. 4 R3. 2.17 R3. 1.30	弁慶3 弁慶3 弁慶3 弁慶3	平茂晴 金太郎3 金太郎3 勝忠平	百合茂 安福久 牛若丸 （長崎） 福之国	前川常太郎 前田進牙 平山義雄 前田進牙	県北

（敬称略）



はずき号：諫早農業高等学校

7月7日 県代表牛選考会（平戸中央家畜市場）



## 第77回九州・山口病性鑑定協議会から ～肉用牛繁殖農場で発生した牛ボツリヌス症～

令和4年6月30日から7月1日にかけて、鹿児島県鹿児島市にて第77回九州・山口病性鑑定協議会が開催されました。県、国、民間製薬会社、大学等から約60名が参加し、各県の病性鑑定事例報告と農研機構動物衛生研究部門の特別講演が行われました。

今回、沖縄県から牛ボツリヌス症について報告がありましたので紹介します。

発生は繁殖雌牛17頭を飼育する黒毛和種繁殖農場で、3歳の経産牛が倒れているとの稟告があり臨床獣医師が往診し、低体温、流涎、起立不能、第一胃運動停止と秘結便（水分含量の少ない馬糞様の糞便）等の症状から牛ボツリヌス症を疑い家畜保健衛生所へ連絡がなされました。当該牛は同日夕方に死亡し、本発生から5日以内に3歳以下の母牛3頭が同様の症状を呈し、内2頭が死亡しました。

発症牛3頭、同居牛3頭、カラス糞便、乾草及び飲水についてボツリヌス毒素検査を実施した結果、発症牛とカラス糞便からボツリヌス毒素が検出され、ボツリヌス菌や毒素に汚染されたカラス糞便が付着した飼料等から菌や毒素を摂取した可能性が疑われました。

牛ボツリヌス症は主にC・D型の神経毒素を産生するボツリヌス菌による疾病で、血中に入ったボツリヌス毒素が末梢神経に作用し、弛緩性の麻痺を引き起こします。臨床症状としては後躯麻痺、起立不能、流涎、呼吸困難、腹式呼吸等を呈し、突然死することも多いと言われています。

本症は本県では過去7年以上発生がありませんが、九州他県では散発的に発生しており、注意が必要です。

牛ボツリヌス症の対策として使用されるワクチンについては、発症抑制には効果的ですが、感染防御はできず、ボツリヌス菌の排菌は抑制しません。そのため、農場内の清掃や消毒及び防鳥ネット設置等の野生鳥獣侵入防止対策等の飼養衛生管理の徹底が重要です。なお、ボツリヌス菌は、通常の消毒薬（逆性石鹼等）では効果が無く、塩素系、ヨード系、アルデヒド系消毒薬のみが有効です。



起立不能を呈した発症牛（写真提供：沖縄県）